

## 微生物検査室のグランドデザインと求められる臨床検査技師像

◎中村 竜也<sup>1)</sup>京都橘大学 健康科学部 臨床検査学科<sup>1)</sup>

2019年12月8日、この日は中国・武漢市で最初にコロナウイルス感染患者が報告された日である。以降、このウイルスは瞬く間に世界中を駆け巡り、今や我々の生活にも大きな影響を及ぼしている。そのコロナ禍の中、病院内における検査室や臨床検査技師の役割も変革の時を迎えつつあり、多くの施設でPCR検査が導入され、微生物検査の幅が広がろうとしている。このような背景を基に、微生物検査室のグランドデザインを考えていかななくてはならない。1990年代以降、微生物検査室は薬剤耐性菌の増加に伴い、その検出や院内におけるアウトブレイクの調査などに力を注いできた。そして、病院内ではICTやASTなどが結成され、チーム医療へ貢献すべく検査体制を構築してきた。近年は微生物検査における技術革新が急速に発展し、質量分析計における同定検査の質的向上や自動遺伝子検出装置による血液培養などの迅速化が進んだ。一方、そのような進歩を遂げる中で、検査プロセスの妥当性の重要性が再認識され、Diagnostic stewardship（診断支援）として提唱された。DSは微生物検査全体の品質保証や精度向上に繋がっており、それが診断や治療の精度を底上げしていると考えられる。では、今後の微生物検査の進むべき方向性であるが、個々の患者に対し更に高精度の医療を提供するための検査結果を提供することであると考えられる。これは感染症診療における Precision Medicine を目指すということの意味する。Precision Medicine（高精度医療）とは、最先端の技術を用い、患者の個人レベルで最適な治療方法（適切な薬のみを投与し治療）を分析・選択し、それを施行することである。PK-PD理論が提唱され、抗菌薬の投与方法に関しては確立されているが、菌側の抗菌薬治療に影響を及ぼす因子の解析については不十分である。検出された菌の素性を進歩した技術を基に検査結果に反映することで、感染症診療における Precision Medicine を実践できると考える。もちろん、その技術を有効に活用するための知識も臨床検査技師に備わっていないといけない。そこで、Precision Medicine を実践するための微生物検査室のグランドデザインと求められる臨床検査技師像について皆さんと考える時間にしたいと思う。